

オースティン・ピー州立大学 (アメリカ)

国際文化交流学部 国際文化交流学科 濱村理央

留学期間：2024年8月～2025年5月

私は約9ヶ月間、アメリカのテネシー州にあるオースティン・ピー州立大学に留学しました。この9ヶ月間は、私の人生において1番刺激的で、私を大きく成長させてくれた、かけがえのない日々だったと感じています。以下では、私の留学中の経験を紹介します。

留学生活で大変だったのは、やはり授業です。現地の学生たちと一緒に心理学、地理学、コミュニケーション、アートなど、様々な分野の授業を受講しました。しかし、英語がわからない私は授業についていくのが大変で、何度も説明を聞いても理解できないせいで教授に困ったような顔をされたり、授業中現地の子は当てるのに私は一度も当てられず疎外感を感じたりと、教室に行くのが辛かった時期もありました。しかし、わからない事があつたらすぐ教授やクラスメイトに質問したり、現地でできた友達に課題や予習を手伝ってもらったり、失敗を怖がらずに発言したりする事で最後の方では毎回楽しく授業に参加する事ができ、いい成績を取る事ができました。

楽しかったことは、友達と遊ぶことです。現地では沢山の友達ができました。友達を紹介してもらったり、留学中何か挑戦したいと思って日本語の授業にボランティアとして毎回参加し、そこで友達を作ったりと、友達を作る機会は多かったように感じます。友達と毎日夜遅くまでおしゃべりしたり、一緒にご飯を作ったり、映画やスポーツを楽しんだり、学校で行われる様々なイベントに参加したりと、一人ぼっちで1日を過ごした事がないくらい、毎日充実した日々でした。特に記憶に残っている友達との思い出は、友達のホームタウンに連れて行ってみんなで夜空を見に行つたことです。星空を見ながらみんなで出会つてからの思い出を振り返つていたところで丁度全員が流れ星を見る事ができ、手を繋いでしゃぎ回りました。貴重な経験を皆で共有できた時のあの興奮は、一生忘れないと思います。帰国して数ヶ月経つた今でも多くの友達と連絡を取り合っており、たまにビデオ通話をすることもあります。異なるバックグラウンドを持ち、日本人にはない価値観を持った人達との交流は、時に衝突を生むこともありましたが、その度に真剣に話し合い、沢山の素敵な思い出を一緒に作る事ができました。

今まで海外に行つた事がないどころか、ずっと実家暮らしで1人で生活した事がなかった私にとって、留学は本当に大きな挑戦でした。空港で両親と別れた瞬間から見るもの全てが初めてで、わくわくと同時に不安もかなりありました。渡航中は、団体で留学に行く同じ世代の人達が楽しそうにしている中、1人で全てこなさなければいけない不安に押しつぶされそうになったり、アメリカに着いた瞬間日本語が全く聞こえない環境になって戸惑つたり、英語での伝え方がわからないせいで買い物すら怖かつたりと、最初は大変でしたが、日々色々な事を経験して、沢山の友達と関わつていく上で自然と自分の中で不安や恐怖は無くなり、現地の友達にも「最初はずっと不安げな表情で、英語が分からなくても分かつたふりをしていたのに、今は自分の意見を言えるし、自信があるように見える」と言われるくらい人として成長する事ができ、帰国時に、アメリカの空港で困っている人を英語で助けられた時には、留学開始直後は周りに助けられてばかりだったのに、今では人を手助けしてあげられるようになったんだなと嬉しくなりました。ずっと憧れだったアメリカ留学に挑戦する決断をして本当に良かったと心から思います。



↑学校のイベントに参加した日

学校では定期的に様々なイベントが開催されています。これは「Silent Disco」という、普通の音楽フェスとは違ってそれぞれのヘッドホンから流れる音楽を楽しむユニークなイベントで、イベント時にはフードやイベントを楽しむためのTシャツなどのグッズが無料でもらえたりします。



↑友達と外食した日

キャンパスの外に沢山のレストランやファストフード店があります。アメリカには様々な人種がいるため、メキシカン、ベトナム料理、タイ料理、中国料理、韓国料理など、様々な国の料理を楽しむことができます。日本食は現地でも人気で、クオリティーは高いとは言えませんが、日本食が恋しくなった時に友人に連れて行ってもらうことができました。



↑フロリダ旅行

長期休暇に国内旅行に行けるのも留学中の楽しみの一つです。夢だった海外のテーマパークに行っ
て、日本にはないアトラクションに乗れて本当にいい思い出になりました。